

取組報告 ～30 年度の巡回相談について

30 年度も保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校を訪問して相談を行いました。1 年を通して30 件の相談がありました。たくさんの御依頼をいただき、ありがとうございました。今回はいただいた相談の中から「黒板を写すのが苦手」という事象についてお伝えします。

「黒板を写すのが苦手」な理由としては、「[見る]・[書く]」といった複数の作業の同時進行が苦手」や「見た物を覚えておける時間が短く、何度も黒板を見るのに疲れる」など様々なことが考えられますが、その一つとして「見えにくさ」が考えられるかもしれません。黒板を写すために必要な「見る力」は、通常の視力検査で測ることができる視力だけではありません。視線を動かしながらピントを合わせる力（眼球運動）や目で捉えた情報を脳に送り、そのものを把握する力（視空間認知）などが必要です。これらを含めた視覚機能が弱いと、「黒板を写すのが苦手」という以外にも、「本読みで行を読み飛ばしてしまう」「文字をきれいに書けない」などの見えにくさによる事象が生まれることがあります。

いろいろな方向に目を向けたり、迷路のような線の上をなぞったりして、目を動かす練習をするとうまく書けるようになる子供もいます。また、視線の移動を少なくするために座席配置を配慮したり、板書時に行間をあけたりすることで行を飛ばしてしまうことを防ぐことができます。他にも「ミッケ！」（ウォルター・ウィック／写真 ジーン・マルゾーロ／文 糸井重里／訳、小学館、2005）のような視覚探索絵本も「見る」練習になります。

黒板を写すのが嫌な子供は、実はいろんなところを「見る」のに一生懸命なのかもしれません。

つなぎ愛シート(個別の教育支援計画)についてのパンフレットができました！

年度末が近づいてきました。各地域の小中学校等では、子供たちの成長や支援内容等の振り返りが行われていると思います。また、この時期は、次の学年や就学先への引き継ぎの時期でもあります。子供たちが新しい学校や学年へスムーズに移行できるように「つなぎ愛シート（個別の教育支援計画）」を活用して次の学校、学年に子供たちの成長や有効な支援を引き継いでいけたらと思います。

パンフレットでは「つなぎ愛シート（個別の教育支援計画）」を記入する上での留意点等をまとめています。詳しくはみくまの支援学校支援部までお問い合わせください。

引き継ぎのポイント

- これまでに有効だった手立てや支援方法
- 合理的配慮について保護者と確認
- 有効な支援を継続するための支援環境についての検討

これらの内容を、個人懇談などを活用して、保護者の方と共有しましょう

取組報告 ～「相互往還」についてのパネル展示

1 2月9日（日）に海南市海南保健福祉センターで行われた「平成30年度社会参加と自立・理解推進講演会」で本校の「相互往還」についてのパネルを作成し、展示しました。私たちは「相互往還」とは、校内と地域の実践を相互に行き来させることで、校内全体の専門性の向上と地域の特別支援教育の推進を目指していくことだと考えています。展示したパネルはみくまの支援学校に掲示しております。本校にお越しの際はぜひご覧ください。

本校コーディネーター望月が、「平成30年文部科学大臣優秀教職員」として表彰されました！

また、併せて「きのくに教育賞」も受賞しました。これからも、コーディネーター一同、地域の学校の先生方と特別支援教育の充実に努めたいと思います。来年度も巡回相談等、ご活用ください。

1年間ありがとうございました。来年度もよろしくおねがいします。